

肺がん患者の薬物治療選択意識・実態調査 調査結果報告書

2016年12月22日
株式会社QLife

■ 本調査に関するお問い合わせ先

株式会社QLife QLife編集部 田中智貴
TEL : 03-6685-2515 / E-mail : info@qlife.co.jp

調査背景

肺がんは、2014年の日本国内における、部位別がん死亡数が最も多いがん※¹であるが、その5年相対生存率は、1997年の35.3%から2007年には44.2%まで上昇※²。日本肺癌学会の「肺癌診療ガイドライン」がここ5年、毎年改定されていることから、肺がんを取り巻く治療環境は飛躍的に進歩していると考えられる。その背景には、近年、新たな作用機序を有する治療薬が複数登場したことが挙げられる。その一方、患者側は治療選択肢が増えていくことを十分理解したうえで、治療に望んでいるかどうか。QLifeは、現在抗がん剤（分子標的薬含む）による治療中、もしくは過去に治療を行ったことがある肺がん患者を対象に、肺がん治療における患者の薬物治療選択の意識と実態、また、肺がん患者の情報源について調査を実施した。

※1 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

http://ganjoho.jp/reg_stat/index.html

※2 全国がん（成人病）センター協議会の生存率共同調査（2016年2月集計）による

<http://www.zengankyo.ncc.go.jp/etc/>

結果概要

92%の患者が「複数の治療方法について説明を受けた上で」治療を受けたかった、と回答。しかし、実際に「複数の治療法について説明を受けてから治療を開始した」のは56%。

複数の治療方法について説明を受けた上で、「主治医との相談の上で決める」が58.0%。「主治医が1つを推奨する」（25.0%）、「自分で決める」（6.0%）と合わせると、92.0%が複数の薬剤について説明を受けたいと望んでいた。しかし、実際に治療選択した際には、複数の治療法を説明されていたのは56%にとどまり、約4割の患者が「1つの治療法のみ説明された」と回答した。

「効果」「副作用」「入院の有無」「治療期間」「費用」のうち、治療を受ける前に最も知りたかった内容に、8割以上の患者が「効果」と回答。

「効果」「副作用」「入院の有無」「治療期間」「費用」のうち、抗がん剤治療を受ける前に知りたかった内容を聞いたところ、「効果」を最も知りたいとの回答が81.0%を占めた。以下「入院の有無」（8.0%）、「副作用（7.0%）」と続いた。

抗がん剤治療を選ぶ際の効果と副作用のバランスは、「効果が1番高い治療方法であれば、副作用があったとしても治療を受けたい」が45%で最多。

抗がん剤治療を選ぶ際、効果と副作用のバランスをどのように考えるか訊ねたところ、45.0%が「効果が1番高い治療方法であれば、副作用があったとしても治療を受けたい」と回答。「なるべく副作用があまりない治療を受けたい」は31.0%だった。

医療従事者以外の情報源は「病院やがんセンターなどのホームページ」が最多も患者の4割にとどまる。「テレビ、ラジオ、新聞」と同じくらい「オンライン上のQ&Aサイト」「家族、親せき、友人」を情報源とする患者も。

情報源について、4割の患者が「病院やがんセンターなどのホームページ」を挙げた。以下、「オンライン上のQ&Aサイト」（28.0%）、「テレビ、ラジオ、新聞などマスメディア」（27.0%）、「一般向けの書籍や雑誌」（25.0%）、「家族、親せき、友人」（24.0%）続いた。一方で、「製薬企業のホームページ」（14.0%）、「患者会や患者会のホームページ」（9.0%）、「がん相談支援センター」（3.0%）は低い結果となった。

調査実施概要

▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

▼実施概要

- (1) 調査対象： 現在、抗がん剤（分子標的薬含む）による治療中、もしくは過去に治療を行ったことがある肺がん患者
- (2) 有効回収数： 100人
- (3) 調査方法： インターネット調査
- (4) 調査時期： 2016/12/9～2016/12/12

▼調査対象内訳

(1) 性別・年代

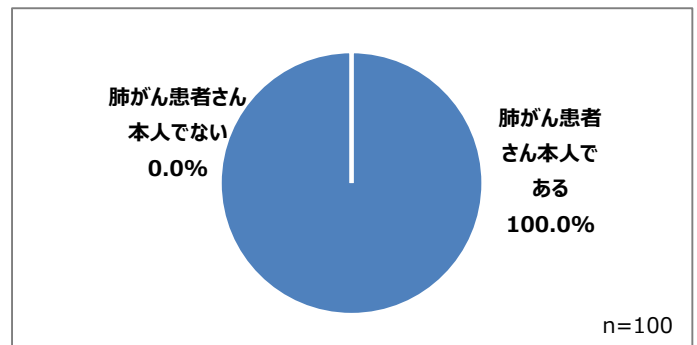
年代	男性	女性	n	男性	女性	%
20代	2	0	2	2.2%	0.0%	2.0%
30代	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
40代	6	5	11	6.7%	45.5%	11.0%
50代	18	3	21	20.2%	27.3%	21.0%
60代	45	3	48	50.6%	27.3%	48.0%
70代	18	0	18	20.2%	0.0%	18.0%
総計	89	11	100	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 居住地

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県
9.0%	0.0%	0.0%	2.0%	1.0%	3.0%	0.0%	3.0%	1.0%	0.0%	5.0%	4.0%
東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
11.0%	7.0%	0.0%	1.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.0%	1.0%	2.0%	7.0%	0.0%
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
3.0%	2.0%	12.0%	4.0%	1.0%	1.0%	0.0%	0.0%	2.0%	3.0%	2.0%	1.0%
香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	1.0%	1.0%	1.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

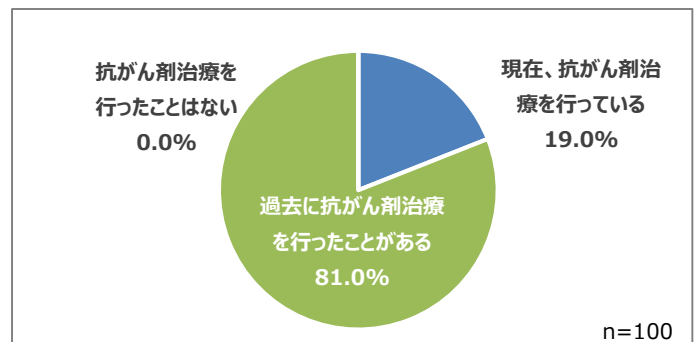
【SC1】あなたの立場として当てはまるものを選んでください。

n=100	(SA)	
	n	%
肺がん患者さん本人である	100	100.0%
肺がん患者さん本人でない	0	0.0%
総数	100	100.0%



【SC2】肺がん治療において、抗がん剤（分子標的薬含む）治療を行ったことはありますか。

n=100	(SA)	
	n	%
現在、抗がん剤治療を行っている	19	19.0%
過去に抗がん剤治療を行ったことがある	81	81.0%
抗がん剤治療を行ったことはない	0	0.0%
総数	100	100.0%

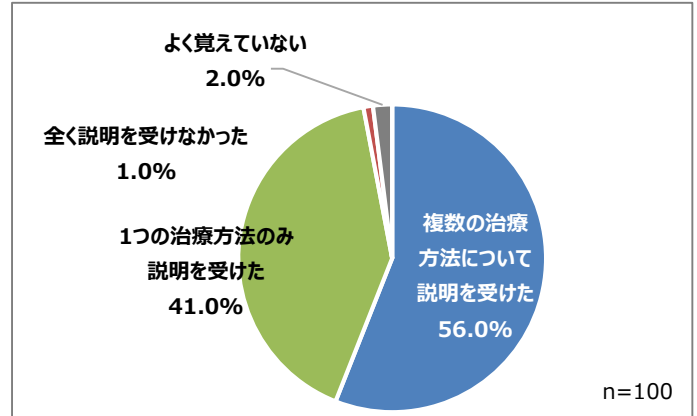


調査結果

【Q1】あなたが抗がん剤(分子標的薬を含む)治療を受ける前に、あなたの主治医から受けた説明として、もっともあてはまるものを選んでください。

56.0%が「複数の治療方法について説明を受けた」と回答した。

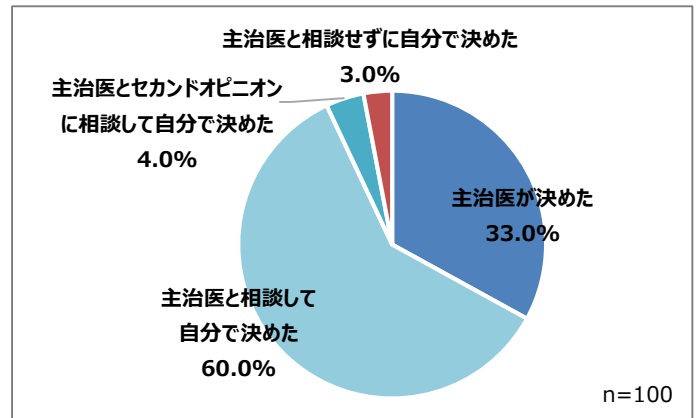
n=100	(SA)	
	n	%
複数の治療方法について説明を受けた	56	56.0%
1つの治療方法のみ説明を受けた	41	41.0%
全く説明を受けなかった	1	1.0%
よく覚えていない	2	2.0%
その他	0	0.0%
総数	100	100.0%



【Q2】あなたが抗がん剤(分子標的薬を含む)治療を行った際、どのように治療法を決定したか、あてはまるものを選んでください。

60.0%が「主治医と相談して自分で決めた」と回答した。

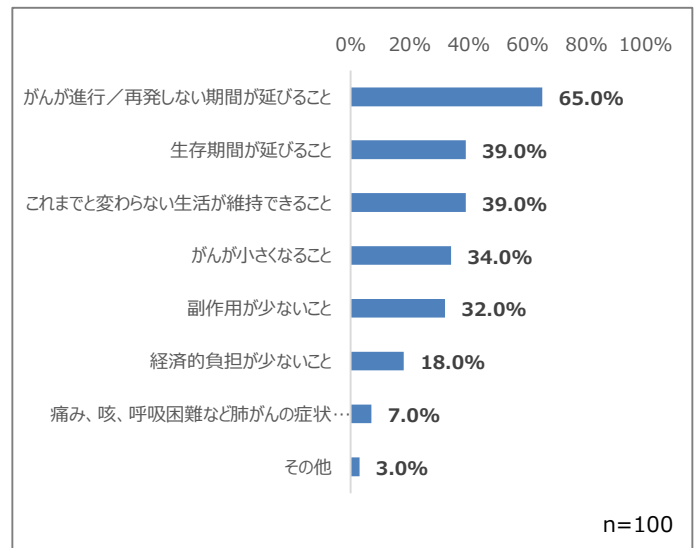
n=100	(SA)	
	n	%
主治医が決めた	33	33.0%
主治医と相談して自分で決めた	60	60.0%
主治医とセカンドオピニオンに相談して自分で決めた	4	4.0%
主治医と相談せずに自分で決めた	3	3.0%
総数	100	100.0%



【Q3】治療開始前に、あなたが治療において重視したことをすべて選んでください。【複数回答】

効果の高さに期待する「がんが進行／再発しない期間が延びること」(65.0%)と「生存期間が延びること」(39.0%)、QOL(生活の質)に関する「これまでと変わらない生活が維持できること」(39.0%)が上位に。

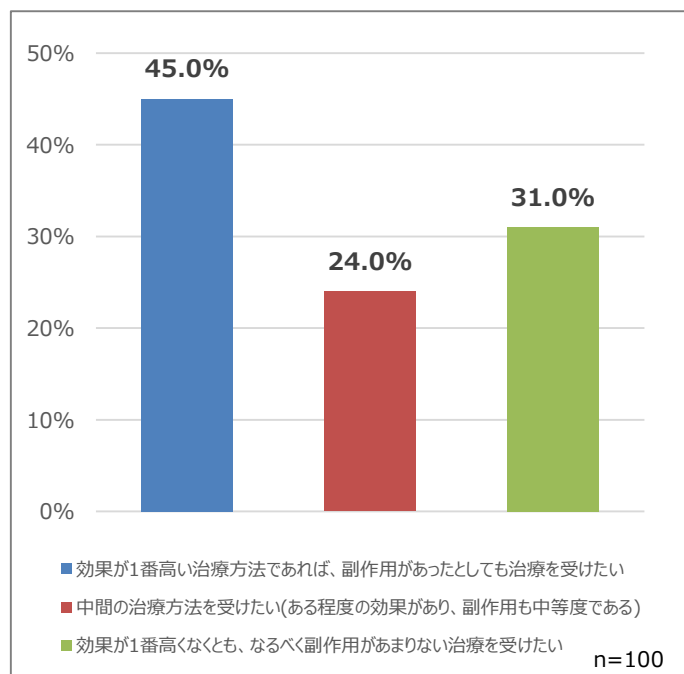
n=100	(SA)	
	n	%
がんが進行／再発しない期間が延びること	65	65.0%
生存期間が延びること	39	39.0%
これまでと変わらない生活が維持できること	39	39.0%
がんが小さくなること	34	34.0%
副作用が少ないこと	32	32.0%
経済的負担が少ないこと	18	18.0%
痛み、咳、呼吸困難など肺がんの症状が減ること	7	7.0%
その他	3	3.0%
総数	100	100.0%



【Q4】抗がん剤治療では副作用が出ることがありますが、あなたは抗がん剤治療を選ぶ際、効果と副作用のバランスをどのようにお考えですか。

「効果が1番高い治療方法であれば、副作用があったとしても治療を受けたい」が45.0%で最多。一方、「なるべく副作用があまりない治療を受けたい」と回答した患者は31.0%だった。

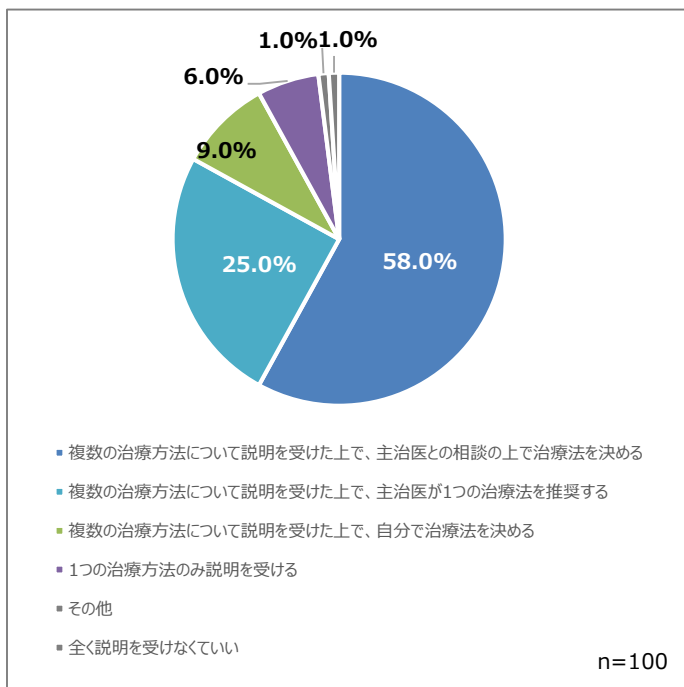
	n=100 (SA)	
	n	%
効果が1番高い治療方法であれば、副作用があったとしても治療を受けたい	45	45.0%
中間の治療方法を受けたい(ある程度の効果があり、副作用も中等度である)	24	24.0%
効果が1番高くなくとも、なるべく副作用があまりない治療を受けたい	31	31.0%
総数	100	100.0%



【Q5】あなたが抗がん剤(分子標的薬を含む)治療を受ける前に、どのような説明を受けたかったですか。

「複数の治療方法について説明を受けた上で、主治医との相談の上で決める」が58.0%。「複数の～主治医が1つを推奨する」(25.0%)、「複数の～自分で決める」(6.0%)と合わせると、92.0%が「複数の薬剤について説明を受け」ることを望んでいる。

	n=100 (SA)	
	n	%
複数の治療方法について説明を受けた上で、主治医との相談の上で治療法を決める	58	58.0%
複数の治療方法について説明を受けた上で、主治医が1つの治療法を推奨する	25	25.0%
複数の治療方法について説明を受けた上で、自分で治療法を決める	9	9.0%
1つの治療方法のみ説明を受ける	6	6.0%
その他	1	1.0%
全く説明を受けなくていい	1	1.0%
総数	100	100.0%

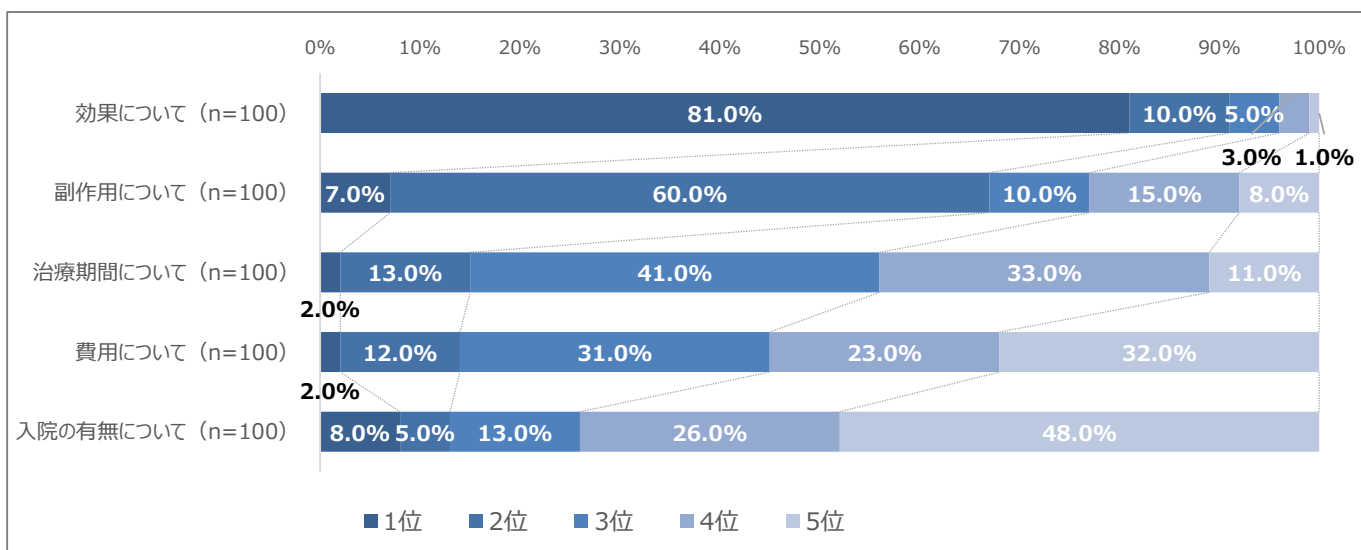


【Q6】「効果」「副作用」「入院の有無」「治療期間」「費用」のうち、あなたが抗がん剤(分子標的薬を含む)治療を受ける前に、知りたかった内容を最も知りたかったものから順に順位をつけてください。

8割以上の患者が「効果」を最も知りたい、と回答した。その次に知りたい情報は「副作用」が多かった。また、順位をポイントに換算して再集計したところ、「効果」が最も高く、次いで「副作用」「治療期間」の順となった。

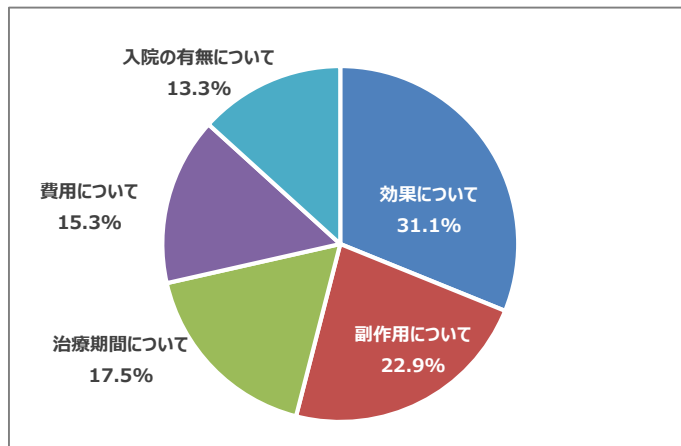
n=100

	1位	2位	3位	4位	5位	n %
効果について	81	10	5	3	1	100
	81.0%	10.0%	5.0%	3.0%	1.0%	100.0%
副作用について	7	60	10	15	8	100
	7.0%	60.0%	10.0%	15.0%	8.0%	100.0%
治療期間について	2	13	41	33	11	100
	2.0%	13.0%	41.0%	33.0%	11.0%	100.0%
費用について	2	12	31	23	32	100
	2.0%	12.0%	31.0%	23.0%	32.0%	100.0%
入院の有無について	8	5	13	26	48	100
	8.0%	5.0%	13.0%	26.0%	48.0%	100.0%



※1位=5pt、2位=4pt、3位=3pt、4位=2pt、5位=1ptとして、各項目のシェアをグラフ化

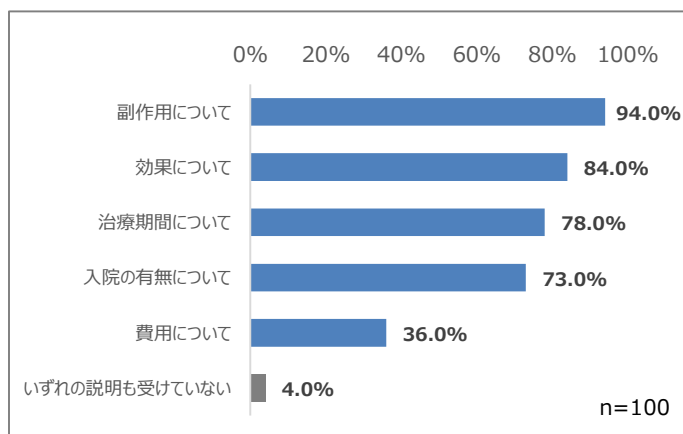
	ポイント	%
効果について	467	31.1%
副作用について	343	22.9%
治療期間について	262	17.5%
費用について	229	15.3%
入院の有無について	199	13.3%
総数	1500	100.0%



【Q7】「副作用」「効果」「治療期間」「入院の有無」「費用」のいずれかについて、主治医や医療従事者から治療について説明を受けましたか。

9割以上が「副作用」について説明を受けたと回答。4.0%が「いずれの説明も受けていない」と回答した。

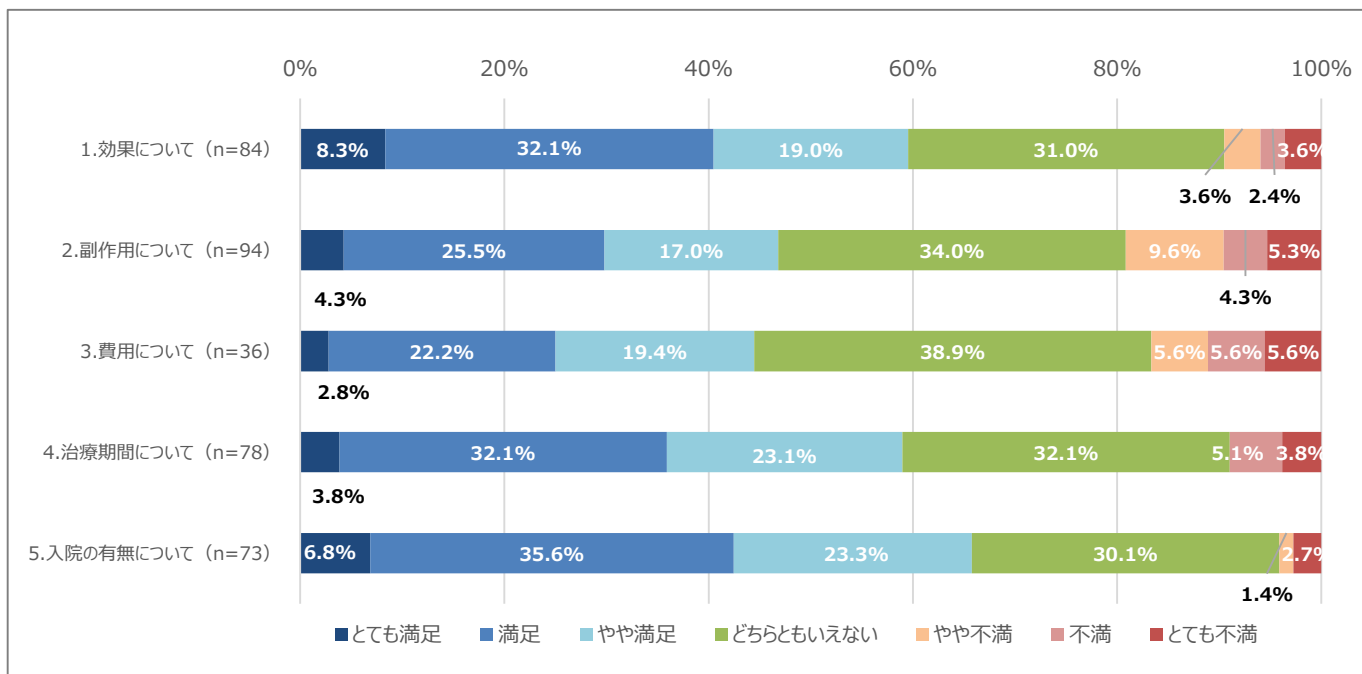
n=100	(MA)	
	n	%
副作用について	94	94.0%
効果について	84	84.0%
治療期間について	78	78.0%
入院の有無について	73	73.0%
費用について	36	36.0%
いずれの説明も受けていない	4	4.0%
総数	100	100.0%



【Q8】「副作用」「効果」「治療期間」「入院の有無」「費用」について主治医や医療従事者から説明を受けた際、説明内容に満足しましたか。

「とても満足」「満足」「やや満足」の合計値では、「入院の有無」が最も高く、次いで「効果」「治療期間」の順となった。

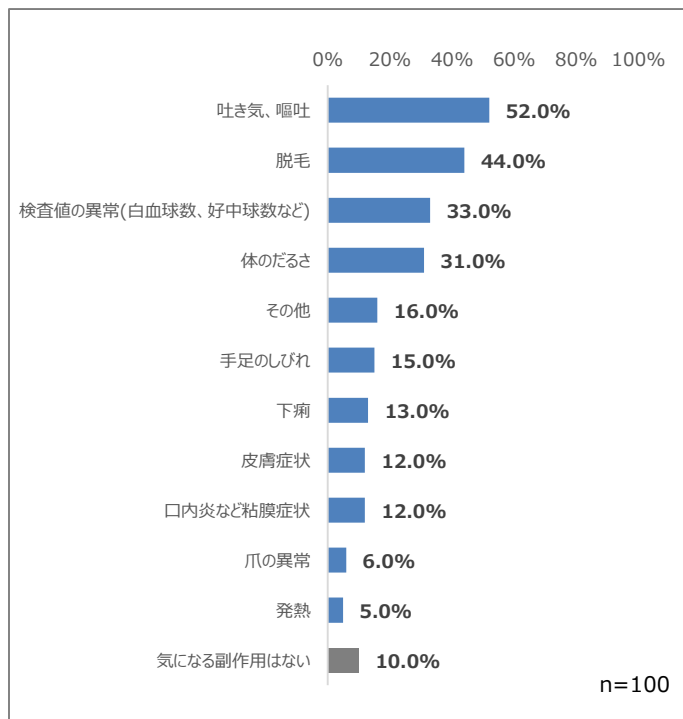
	とても満足	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	とても不満	n %
1.効果について (n=84)	7 8.3%	27 32.1%	16 19.0%	26 31.0%	3 3.6%	2 2.4%	3 3.6%	84 100.0%
2.副作用について (n=94)	4 4.3%	24 25.5%	16 17.0%	32 34.0%	9 9.6%	4 4.3%	5 5.3%	94 100.0%
3.費用について (n=36)	1 2.8%	8 22.2%	7 19.4%	14 38.9%	2 5.6%	2 5.6%	2 5.6%	36 100.0%
4.治療期間について (n=78)	3 3.8%	25 32.1%	18 23.1%	25 32.1%	0 0.0%	4 5.1%	3 3.8%	78 100.0%
5.入院の有無について (n=73)	5 6.8%	26 35.6%	17 23.3%	22 30.1%	1 1.4%	0 0.0%	2 2.7%	73 100.0%



【Q9】あなたが気になる抗がん剤の副作用は何ですか。以下の選択肢より最大3つまで選んでください。

「吐き気、嘔吐」が最も多く過半数の患者が気になると回答。次いで「脱毛」「検査値の異常(白血球数、好中球数など)」が挙げられた。

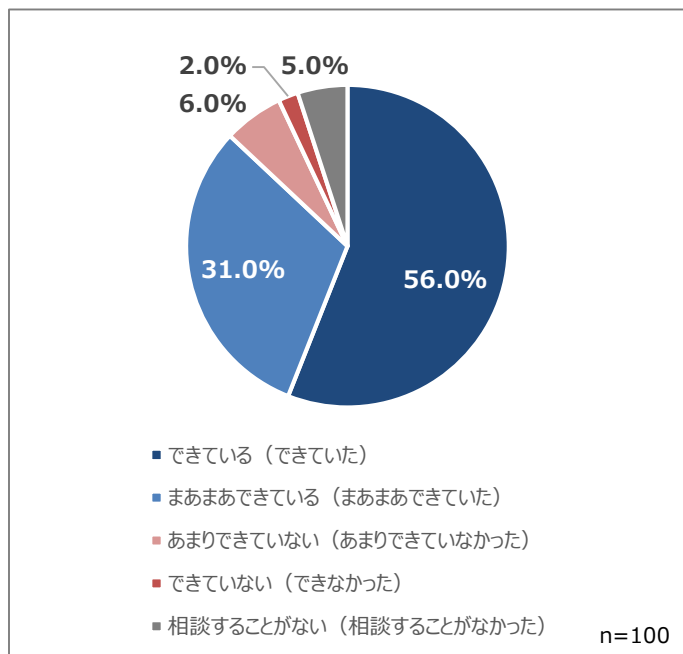
n=100		(MA)	
	n	%	
吐き気、嘔吐	52	52.0%	
脱毛	44	44.0%	
検査値の異常(白血球数、好中球数など)	33	33.0%	
体のだるさ	31	31.0%	
その他	16	16.0%	
手足のしびれ	15	15.0%	
下痢	13	13.0%	
皮膚症状	12	12.0%	
口内炎など粘膜症状	12	12.0%	
爪の異常	6	6.0%	
発熱	5	5.0%	
気になる副作用はない	10	10.0%	
総数	100	100.0%	



【Q10】あなたが治療中に副作用が出た場合、主治医や医療従事者(看護師、薬剤師)に相談できていますか(できていましたか)。

「できている(できていた)」、「まあまあできている(まあまあできていた)」合わせておよそ9割が「相談できています」と回答した。

n=100		(SA)	
	n	%	
できている(できていた)	56	56.0%	
まあまあできている(まあまあできていた)	31	31.0%	
あまりできていない(あまりできていなかった)	6	6.0%	
できていない(できなかった)	2	2.0%	
相談することがない(相談することがなかった)	5	5.0%	
総数	100	100.0%	

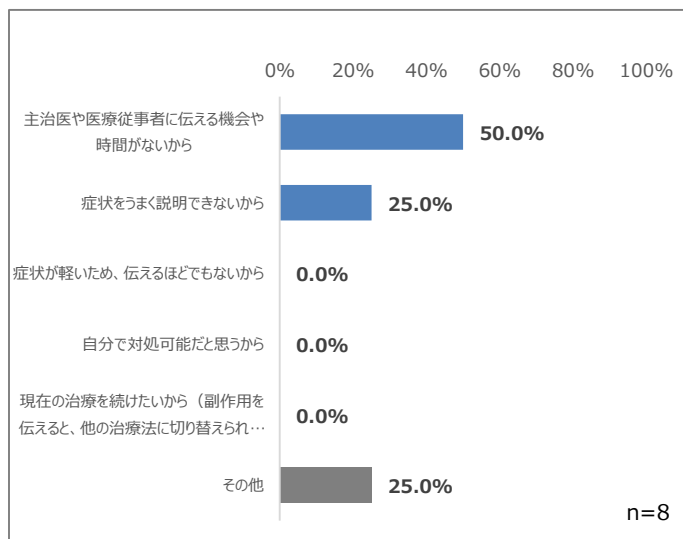


【Q11】相談があまりできていない（あまりできていなかった）、できていない（できなかった）理由として該当するものを全て選んでください。

※Q10で「あまりできていない（あまりできていなかった）」「できていない（できなかった）」と回答した人のみ回答

半数が「主治医や医療従事者に伝える機会や時間がないから」と回答した。

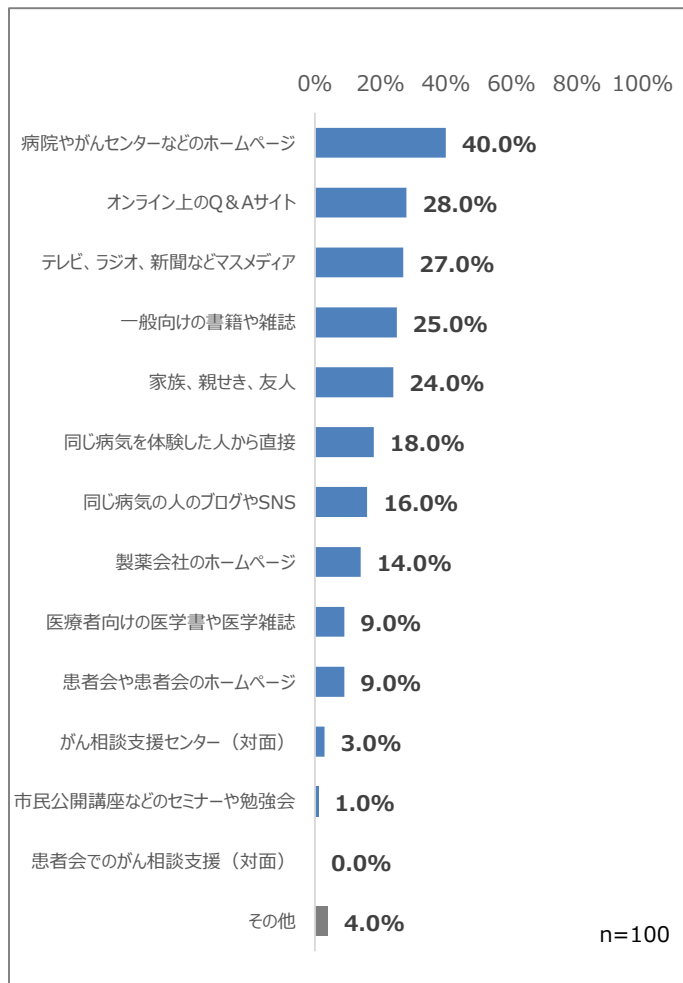
n=8		(MA)	
	n	%	
主治医や医療従事者に伝える機会や時間がないから	4	50.0%	
症状をうまく説明できないから	2	25.0%	
症状が軽いため、伝えるほどでもないから	0	0.0%	
自分で対処可能だと思うから	0	0.0%	
現在の治療を続けたいから（副作用を伝えると、他の治療法に切り替えられてしまうから）	0	0.0%	
その他	2	25.0%	
総数	8	100.0%	



【Q12】あなたは医師・看護師・薬剤師などの医療従事者以外に、どのような媒体から病気や治療の情報を得ていますか。

情報源について、4割の患者が「病院やがんセンターなどのホームページ」を挙げた。以下、「オンライン上のQ&Aサイト」（28.0%）、「テレビ、ラジオ、新聞などマスメディア」（27.0%）、一般向けの書籍や雑誌（25.0%）、「家族、親せき、友人」（24.0%）続いた。一方で、「製薬企業のホームページ」（14.0%）、「患者会や患者会のホームページ」（9.0%）、「がん相談支援センター」（3.0%）は低い結果となった。

n=100		(MA)	
	n	%	
病院やがんセンターなどのホームページ	40	40.0%	
オンライン上のQ&Aサイト	28	28.0%	
テレビ、ラジオ、新聞などマスメディア	27	27.0%	
一般向けの書籍や雑誌	25	25.0%	
家族、親せき、友人	24	24.0%	
同じ病気を体験した人から直接	18	18.0%	
同じ病気の人のブログやSNS	16	16.0%	
製薬会社のホームページ	14	14.0%	
医療者向けの医学書や医学雑誌	9	9.0%	
患者会や患者会のホームページ	9	9.0%	
がん相談支援センター（対面）	3	3.0%	
市民公開講座などのセミナーや勉強会	1	1.0%	
患者会でのがん相談支援（対面）	0	0.0%	
その他	4	4.0%	
総数	100	100.0%	



【Q13】あなたが医療関係者以外から得た情報を元に、主治医に相談をしたこと（話をしたこと）がありますか。

45.0%の患者が「ある」と回答した。

	(SA)	
	n	%
ある	45	45.0%
ない	55	55.0%
総数	100	100.0%

